

PRAEVIDENTIA DAILY (11月20日)

昨日までの世界：議事要旨でFOMCがハト派でないことを確認

昨日は、日銀決定会合では特段目新しい材料がない中で、対円や対コモディティ通貨で淡々と米ドル高が続き、FOMC発表直後は一旦ドルが小反落する局面もあったが下落は浅く、むしろすぐに上昇基調に回帰・続伸しドル/円は一時118円台乗せとなった。豪ドル/米ドル相場も1%以上下落しており、豪ドル安基調再開の兆しが見られている。

FOMC議事要旨では、発表直後にはインフレ率が上昇しないことやインフレ期待の低下への懸念が示されたことが材料視されてか、米中長期債利回りの低下とドル安に繋がる局面もあった。もっとも、全体としては、海外経済減速の米国への影響が極めて限定的とされ、またドル高が輸出に与える影響も緩やかとされたことから、FOMCの海外経済減速やドル高への懸念は強くないことが再確認され、ドル買戻しに繋がった。エネルギー価格下落についても、インフレ率低下に繋がるリスクではなく、むしろ消費を加速させる点が指摘され、FOMCの楽観姿勢が明らかとなっている。

この間、米経済指標は概ね良好で、10月の住宅着工件数は101万件と市場予想を下回ったが前月計数が上方修正され、建設許可件数はむしろ108万件と予想を上回った。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	+0.9	+0.02	+0.02	-0.01	+0.07	+0.04	-0.03	-0.2	-0.3	-0.4
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.1	-0.01	+0.01	+0.02	+0.00	+0.04	+0.04	+0.1	-0.2	-0.03
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	+0.3	+0.01	+0.03	+0.02	-0.02	+0.02	+0.04	-0.2	-0.2	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-1.1	-0.04	-0.03	+0.02	-0.05	-0.01	+0.04	-0.2	-0.2	+0.2
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.9	-0.02	+0.00	+0.02	-0.07	-0.04	+0.04	-0.2	-0.2	+0.2
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.4	-0.01	+0.02	+0.02	+0.00	+0.04	+0.04	-0.2	+0.0	+0.2

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：コア CPI が低下しないことを確認

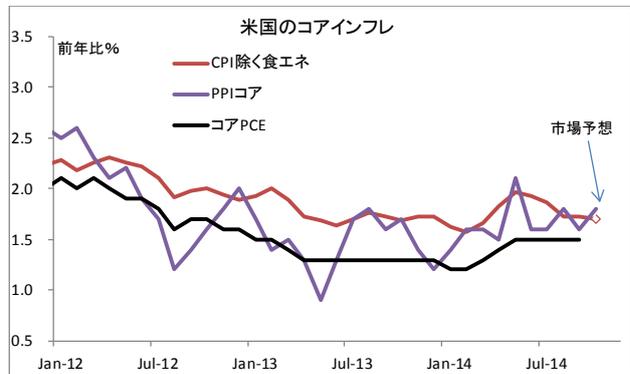
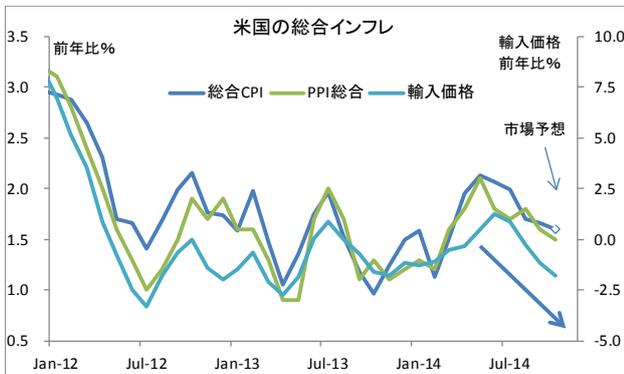
きょうの注目通貨：USD/JPY ↑、EUR ↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦 10 月通関貿易収支・円	8 : 50	-9606 億	-1.05 兆	
中国 11 月 HSBC 製造業 PMI 速報	10 : 45	50.4	50.3	
フランス 11 月 PMI 製造業	17 : 00	47.3	48.8	
ドイツ 11 月 PMI 製造業	17 : 30	51.8	51.5	
ユーロ圏 11 月 PMI コンポジット速報	18 : 00	52.2	52.3	
英 10 月小売売上高・除く燃料・前月比	18 : 30	-0.3%	+0.3%	
Tarullo・FRB 理事発言	21 : 45			中立、常に投票権あり
南ア準銀金融政策決定・レポ金利	22 : 00	5.75%	5.75%	
米 10 月コア CPI 前年比	22 : 30	+1.7%	+1.7%	
米新規失業保険申請件数	22 : 30	29.0 万人	28.5 万人	
米 10 月中古住宅販売	0 : 00	517 万件	516 万件	
米 11 月フィラデルフィア連銀サーベイ	0 : 00	20.7	18.3	
Mester クリーブランド連銀総裁発言	3 : 30			ややタカ、来年は投票権なし

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日もドル/円がどこまで上昇するのが焦点で、最近の米経済指標が概ね良好な中、昨日の FOMC 議事要旨も声明文よりもハト派的ということがないことが確認されたことから、上昇基調が続きそうだ。イベントリスクとして米コア CPI がある。ドル高、原油安を映じて輸入物価は低下しているものの、コア PPI は下落せずむしろ直近は伸び率が高まっている状況で、本日のコア CPI も、コア PPI との月次の連動性は然程強くないが、どちらかという予想比上振れリスクがありそうな状況だ(下図を参照)。コア CPI が下がらないことが確認できれば、ドル/円の上昇トレンドは強まりそうだ。

ユーロ圏では PMI 速報が発表される予定で、先日発表されたドイツ ZEW 期待指数の改善と整合的なかたちで、全般的に改善が予想されている。ECB は今月初の政策理事会で、スタッフに対し量的緩和を含む追加緩和策の検討を指示したが、足許は成長率、インフレ率、景況感指数のいずれも底打ち感が示されている中で、量的緩和がすぐには導入されないリスクが高まっており、短期的なユーロ買戻し継続の可能性を高めている。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者(投資助言・代理業) 関東財務局長(金商)第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641